

本時のねらい (2/14時)
4. 2×3 の計算の方法について今までの学習をもとに考え、被乗数が小数の場合も筆算で計算できることがわかる。

評価規準
<数学的な考え方> 小数の筆算の計算の仕方は小数を0.1を単位として見ることにより整数の乗法に帰着できると考える。

段階	学習活動	個のつまずきに対する指導
問題	<p>1, 問題提示をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 4. 2mのひもを3本使います。ひもは全部で何mいるでしょう。 </div>	<p>○前時の授業を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0.2×6の計算では、0.1をもとに考えると良かったことを思い出す。
見通し	<p>2, 見通しを持つ</p> <p>○ 4.2×3で求められそうだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨日と違うところは、一の位にも数字がある (暗算で計算できない) 	<p>○今日の式は、帯小数×整数の計算だということに注目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前の時間の式とはどこがちがうだろう
課題	<p>3, 課題提示</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content;"> 4. 2×3の計算の仕方を考えよう。 </div>	<p>○考えるヒントとして前時の学習を思い出させ、0.1をもとに考えてみると良いことを話す。</p>
考え	<p>4, 個人追求、グループ交流、全体交流</p> <p>○ 4.2は4と0.2</p> $\begin{array}{r} 4 \times 3 = 12 \\ 0.2 \times 3 = 0.6 \\ 12 + 0.6 = 12.6 \end{array}$ <p>○ 4.2は0.1が42個だから</p> $\begin{array}{r} 42 \times 3 \\ 42 \\ \times 3 \\ 126 \end{array}$	<p>○ヒントカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えが持てない児童に対してのヒント <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 40px; margin: 5px auto;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4.2の小数点をなせ取るのか、説明できない児童に対してのヒント <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 4.2は0.1の 分 </div>
交流	<p>○ 自分の考えを発表する (3人ぐらい)</p> <p>○ 発表しない子は発表する子が黒板に考えを書いている間、近くの席の子と考えを交流し合う</p> <p>○ 「は・か・せ・どん」で 42×3の筆算をすればよいことに気づく</p>	<p>○ 期間巡視をしておき意図的に指名する。</p> <p>○ 近くの席のこと交流することによって自分と違う考え方があることに気づく。</p> <p>○ 4.2は0.1が42個だから</p> $\begin{array}{r} 42 \longleftarrow 0.1 \text{が} 42 \text{個} \\ \times 3 \\ 126 \longleftarrow 0.1 \text{が} 126 \text{個} \end{array}$ <p>0.1が126個だから12.6</p>
まとめ	<p>5, まとめ</p> <p>○本時のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 0.1をもとにすると、小数のかけ算も整数のかけ算と同じように筆算がつかえる。ただし、小数点の位置に気をつける。 </div>
力試し		
振り返り	<p>○練習問題をする</p>	<p>○小数点の位置に気をつけさせる</p>
	<p>○自己評価をする</p>	<p>○自己評価カードから理解度を把握する。</p>